

## TOEIC Part 7 に必要な普遍的な能力

田岡 育恵

情報科学部 情報メディア学科

(2016年5月31日受理)

### Universal Abilities Required in TOEIC Part 7

by

Ikue TAOKA

Department of Media Science, Faculty of Information Science and Technology

#### Abstract

This paper examines the abilities which I think are necessary in the process of solving problems in TOEIC Part 7. In TOEIC Part 7, we are supposed to choose the most appropriate answer based on one or more texts given in each question. Knowledge of English expressions and sentence structure is necessary, but I think beyond that more abstract abilities are required in solving the problems there. The abilities are not limited to one particular language, such as English, so I call them universal abilities here. The abilities are those of word association, inference, relating what is given in different texts to each other, and judgment about which is the most suitable answer to each question. Such abilities also work in the process of dismissing wrong answers in solving problems.

**キーワード;** TOEIC, 語の連想, 推論, テクストの関連づけ, 誤答排除プロセス

**Keyword;** TOEIC, word association, inference, relating texts, process of dismissing wrong answers

## 1. はじめに

TOEIC の Part 7 は、1 つのトピックについて書かれた短い英文 (以下、本文と呼ぶ) の内容についての理解を選択解答で問うものである。本文は、広告、メール、記事、請求書、保証書など様々である。英語力を問うテストであるから、本文や選択肢に用いられている表現をまったく知らないということでは解答はできない。しかし、単に表現の意味を知っていて構文の意味が分かるということ以外に、解答に求められる普遍的な、つまり英語という個別言語を超えた能力が必要であると考えられる。語の連想や推論をする能力、異なる文脈で述べられたことを関連づける能力、解答としてより適切な選択肢を選ぶ能力などが必要である。本稿では、そのような能力について考えてみる。

## 2. 解答のプロセスに必要な能力

### 2.1 連想・推論する能力

本文で述べられていることと同じことだとすぐ分かる選択肢がある問題、たとえば、When is the shop not open? という質問で、本文に Opening hours: Monday through Friday とあり、選択肢の中に、たとえば Saturday があれば、すぐにそれを答えとして選ぶことができる。しかし、このような単純な質問ではなく、本文で用いられている表現と選択肢で用いられている表現の間で何らかの連想や推論が必要と考えられる場合も多い。

たとえば、(1)の問いの答えは At a university であるが、この問題の本文は Ken Kuroda のメールの受信トレイになっていて、その Subject 欄には、(2a-c)のような件名がある。<sup>1)</sup>

(1) Q: Where does Ken Kuroda probably work?

A: At a university

- (2) a. Directions to Professor Lee's retirement party  
b. Instructions for graduation day  
c. Student financial awards

(2a-c)の professor, graduation, student といった表現から、「大学に勤務している」と連想できれば正答できる。

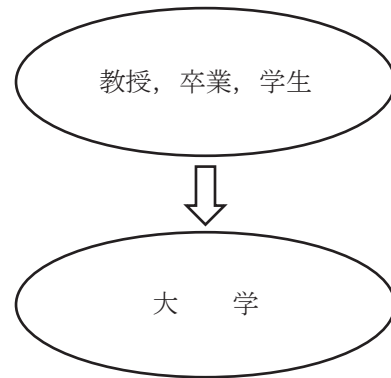


Fig. 1 (1)の解答における語の連想

次の(3)の問いの答えは、a restaurant owner である。本文で、Mr. Grayson は(4)のように言っている。<sup>2)</sup>

(3) Q: Who most likely is Mr. Grayson?

A: A restaurant owner

(4) “So I expect a lot of people to visit this ECOMPS location. I hope they will then stop by my establishment to enjoy a delicious and reasonably priced meal.”

本文中の語 meal から、その語のネットワークで restaurant に連想が働けば解答できる。

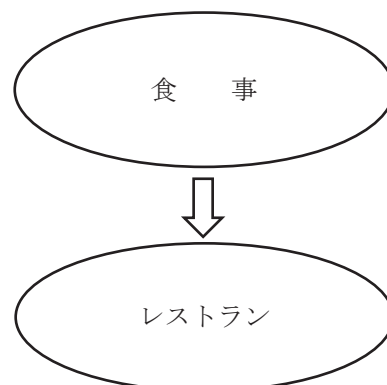


Fig. 2 (3)の解答における語の連想

次の(5)の問いの答えは、「Jansson Glass の本社は最近移転した」である。本文で「Jansson Glass の本会社が最近移転した」とは書かれていないが、(6a, b)のような表現が見られる。<sup>3)</sup>

- (5) Q: What is indicated about Jansson Glass?  
 A: It has recently moved from its original location.
- (6) a. the company's new headquarters  
 b. the recently vacated original Jansson Glass headquarters

新しい本社や元の場所に言及されるということは、本社の移転があったのだという推論が働くかどうか鍵になる。

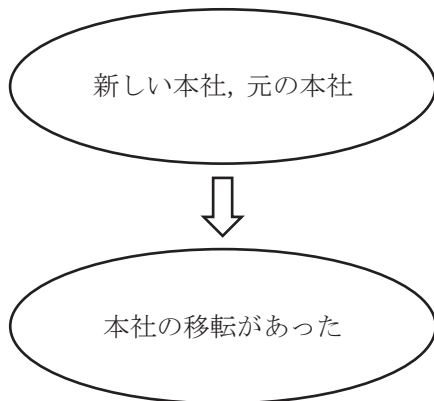


Fig. 3 (5)の解答における推論

次の(7)の問いの答えは「Mr. Woods は以前に絵画の経験がある」であるが、本文では「以前に絵画の経験がある」とは述べられていない。本文は、Mr. Woods が受講した絵画コースについて感想を送ったメールになっていて、そこには(8a, b)のように書かれている。<sup>4)</sup>

- (7) Q: What is suggested about Mr. Woods?  
 A: He has previous painting experience.
- (8) a. Unfortunately, that meant that the more experienced students received less of the promised “individual attention” than I had hoped.  
 b. I would seriously consider taking a second class next year but would want to be sure that the instruction was appropriate to my skill level.

(8a, b)では、経験者は十分な個別指導が受けられなかった、次回は自分のレベルに合った指導を受けたいと述べている。そこから推測

して、Mr. Woods は絵画の経験があると判断される。初心者であれば、初心者中心の指導になったことに不満を持たないだろうという推論である。

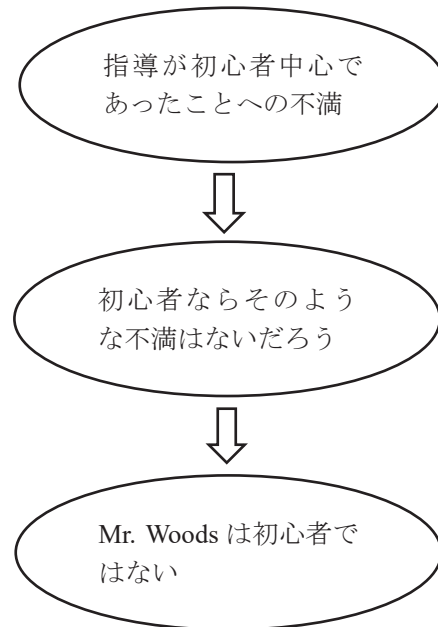


Fig. 4 (7)の解答における推論過程

次の(9)の問いの答えは、「彼女には、彼女の同僚が持っていない専門知識がある」である。本文では「Ms. Norling が同僚にはない専門知識を持っている」と明示的に書かれてはいない。本文でこの答えと関係しているのは、本文中の(10)の部分である。<sup>5)</sup>

- (9) Q: What is suggested about Ms. Norling?  
 A: She has expertise that her colleagues do not have.
- (10) I know that the research and development group is thrilled that a robotics specialist will finally be joining their team.

(10)に見られる finally で、そのグループには今までロボット工学（彼女の分野）の専門家はいなかったということが分かる。新しく加わるのは、Ms. Norling である。このような推論が必要である。

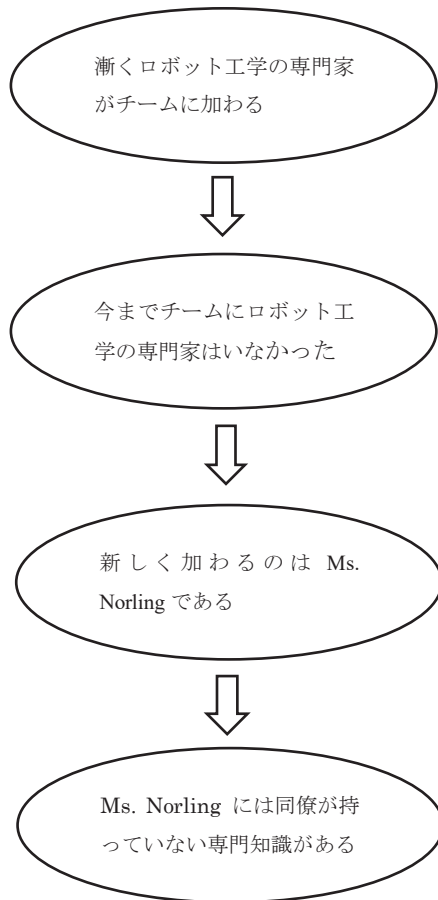


Fig. 5 (9)の解答における推論過程

Part 7 の問題の中には、本文が1つではなく2つの本文を読んで答える場合もある（ダブルパッセージと呼ばれ、以下、そう呼ぶ）。<sup>6)</sup>そのような場合を次節で見よう。

## 2.2 複数の本文を対照する能力（ダブルパッセージ）

次の(11)の問いの答えは「天気予報が晴れだった」である。(11)が関係する1つの本文は、出張のもろもろの手配（飛行機、ホテル、鎌倉散策の手配など）を依頼するメールであり、もう1つの本文は、手配を依頼された側からの返事で、そこには出張の日程表が示されていて、散策が11月12日に入れられている。

(11) Q: Why was an outing organized for November 12?

A: The forecast was for good weather.

なぜ散策が11月12日になったのかという理由は、直接には書かれていないが、最初の依頼メールに、(12)のように書かれている。<sup>7)</sup>

(12) Also, could you please make arrangements for us to visit the city of Kamakura? Since we would like to be there when the weather is pleasant,...

(12)から判断して、天気がよいので12日に散策が予定されたのだと推測される。

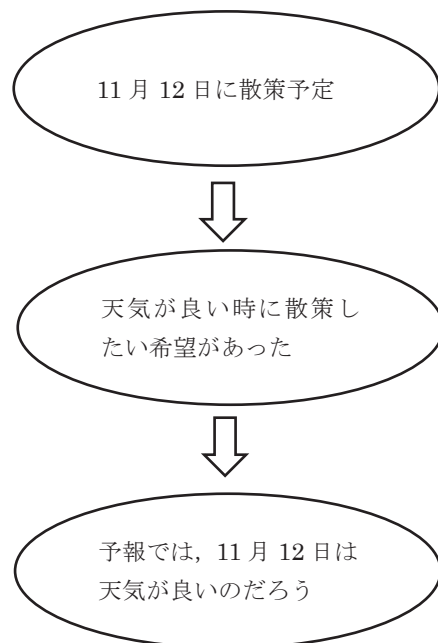


Fig. 6 (11)の解答における推論過程

次の(13)の関係する1つの本文は、コンピュータストアの開店についての記事であり、もう1つの本文は、Mr. Aluka から Ms. Hyun に送られたメールである。(13)の問いの答えは「Mr. Aluka は、近々マンチェスターを訪問する」である。<sup>8)</sup>

(13) Q: What is indicated about Mr. Aluka?

A: He will be visiting Manchester shortly.

本文に、Mr. Aluka がマンチェスターを訪問すると明示的に書かれている個所はない。しかし、記事に(14a)、メールに(14b)のような個所がある。(14a)の she, (14b)の your, you は、

すべて Ms. Hyun を指す。

(14) a. For the past five years, she has managed an ECOMPS in Manchester.

b. I will be meeting with some of your former colleagues at the store you last supervised.

(14a)「彼女が、過去5年間マンチェスターで店長をしていた」、(14b)「私はあなたが店長をしていた同僚の人たちを訪ねるつもりだ」とあり、そこから、かつての Ms. Hyun の同僚とはマンチェスターのスタッフのことだと判断される。この問題は、2つの本文の両方を関連させて推論を働かせることが求められるので、TOEIC の限られた時間の中での解答はかなり難しいと思われる。

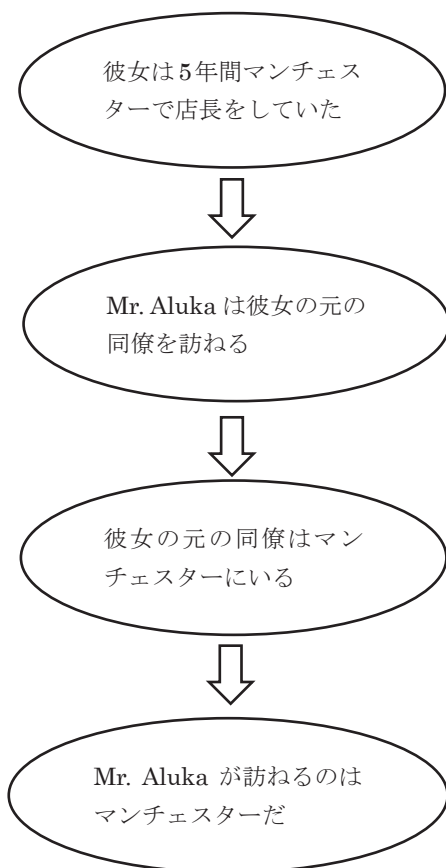


Fig. 7 (13)の解答における推論過程

ダブルパッセージでは、2つの本文と選択肢の内容を関連づける能力が必要である。

### 2.3 NOT True を答える能力

Part 7 の問題には、本文の内容と合う(True)を選ぶものだけでなく、本文の内容に合わない(NOT True)を答えとする場合がある。

この場合、本文について記憶に合う選択肢を先ず選ぶ。その後で残ったものを答えとして選ぶことになる。

我々の認知は、既に頭の中にインプットされていることに合うものに反応しようとする。したがって、NOT True を選ぶ問題は、先ず True の選択肢を認識して、それを排除するという二段階のプロセスのため、解答に時間がかかり、解答は True を問うものより難しくなると考えられる。

NOT True に限らず、正解が分かりにくい場合は、誤っていると思われる選択肢を排除していくことで正解にたどり着くことがある。次節では、この排除のプロセスを取り上げる。

### 3. 誤答排除のプロセス

#### 3.1 本文に書かれていないことの場合

本文で述べられていることと一部、異なる内容の選択肢は排除しやすいと思われる。本文と部分的に同じであれば、その部分が本文のどこを確認すべきなのかを導く。その部分が trigger になって、本文の該当箇所を絞り込み、そこを読み返して正誤を判断すればいいからである。たとえば、When is the shop open? という質問なら、本文で「店の営業時間」が書かれている部分を見て、その正誤を判断すればよい。

これに対して、本文で述べられていない選択肢については、本文全体を走査することになり、時間がかかる。

更に、本文に書かれていなくても、解答者がこの状況ならこのようなことはあり得ると思う選択肢の排除は難しい。我々は、経験的に、言葉ですべてのことが表現されるのではないということを知っている。事実の一部を選んで、一部に焦点を当てて言語化している。言葉とはそういうものである。そのようなことを我々は経験的に知っているため、本文に書かれていなくても、我々の常識や経験に照らし合わせてあり得る状況と思われることを述べている選択肢は排除し難い。このような

点においても、本文に書かれていない内容の選択肢の排除は難しいと思われる。

### 3.2 誤答に誘導される場合

本文の内容と正反対のことを述べている選択肢は排除しやすい。たとえば、本文(葉書の文面)に(15)のような文がある場合、(16)の問いの答えとして(17)のような選択肢は容易に排除できる。<sup>9)</sup>

(15) Our records show that your last dental exam was on 24<sup>th</sup> August of last year.

(16) Why was the postcard sent?

(17) To welcome a new patient

(15)では、「前回の歯科検診」とあるから、(17)の「新規患者を受け入れる」というのは矛盾する。本文の内容と明らかな矛盾を含む選択肢は排除しやすい。

他方、本文の内容と部分的に合う選択肢に解答者が惑わされるということもある。たとえば、次の例がそうである。この本文は、企業が従業員の子弟に対して出す奨学金の案内である。問いは(18)で、(19a, b)は、どちらも誤答の選択肢である。<sup>10)</sup>

(18) What is being announced?

(19) a. An information session about educational scholarship

b. Financial aid for employees who want to attend university

(19a)は、session がなければ正解になり得る。本文は、奨学金の情報という点では、そうだからである。(19b)は、employees ではなく employees' children なら正解になり得る。このような場合、注意深く読めば、部分的に本文と合う部分に引きずられないのだが、選択肢と本文の部分的に合う個所の認知で留まれば誤答することになる。

また、選択肢に書かれていることは、本文と照らし合わせて間違いとは言えないが、正解にはならないという場合がある。

次の本文は、自然センターが開館したという記事である。(20)が問い、(21)は誤答の選択

肢の1つである。<sup>11)</sup>

(20) What is the purpose of the article?

(21) To describe the construction of the new nature center

本文の中に、自然センターの建設工事についての言及があり、(20)はそれ自体、本文の事実を述べていると言える。しかし、「記事全体の目的」としては不適切ということになる。つまり、局所的事実だけでなく、本文は全体として何を言いたいのかということ適切に理解する能力が必要となってくる。

次の本文は、文具店のウェブサイトになっていて、(22)の答えとして誤答になるのが(23)である。<sup>12)</sup>

(22) What is indicated on the Web page?

(23) E-mail inquiries are not encouraged.

(23)の本文には、問い合わせ先として電話番号とメールアドレスの両方が載っているのであるが、ページの冒頭に(24)のような文がある。

### (24) Contact information

Customer service representatives are available to help you by telephone from Monday to Friday, 8 A.M. to 6 P.M.

(24)のような「電話での対応が可能である」という文が冒頭にあるのなら、(23)の「Eメールでの問い合わせは奨励されない」を True と取る可能性はあるだろう。しかし、よく見れば後にメールアドレスも載っていて、特に電話の方がいいとは書かれていないということに注意すれば、誤答することはない。また、そのような曖昧な部分のない、より適切な選択肢が別にあるということに気づけば、誤答することはないだろう。

次の例では、Girard & Durand という企業にビジネスにおける力添えを依頼する手紙が本文で、問いは(25)のようなものである。<sup>13)</sup>

(25) What kind of company is Girard & Durand?

正解は *an advertising company* であるが、本文では、依頼者は自分の友人(Ms. Moreau)が過去数年間、Girard & Durand 社と仕事をしてきたことに言及している。それが(26)である。(26)から Girard & Durand の業種を判断しなければならない。

(26) Ms. Moreau tells me that she has worked with your company over the past few years to promote her business. She speaks very highly of your expertise and finds your work ethic to be outstanding. She is also enjoying more sales as a result of the increased exposure you have provided for her.

(26)には、特にこの業種だと決めるようなことは何も書かれていない。唯一、ヒントになるのが *exposure* という語であるが、これなら誤答の *a news reporting agency* でも答えになり得るのではないかと思われる。しかし、企業の宣伝ということで考えれば、より適切な選択肢は *an advertising company* ということになる。ここでも、他の選択肢の中により適切な答えを見つけることができれば誤答することはない。

### 3.3 表現が曖昧な場合

次の本文は、購入した冷蔵庫の不具合に関する苦情である。問い(27)の誤答選択肢の1つが(28)である。<sup>14)</sup>

(27) Why did the customer contact the manufacturer about the product?

(28) It was delivered in damaged condition.

本文で冷蔵庫の不具合を述べている部分は、(29)である。

(29) Unfortunately, there were some problems. The refrigerator's shelves were actually very difficult to adjust. A clasp broke when I was attempting to remove a shelf, and the interior wall of the refrigerator was scratched.

(29)では、棚の調節の難しさと冷蔵庫の内部

側面の傷について言及されている。この内部側面の傷であるが、この傷が棚の調整時に付いたものなのか、それとも配達以前に付いたものなのかは、明らかではないと言えるのではない。英語は、動作受動と状態受動の区別が形の上で曖昧になることがある。この問いについては、このような曖昧さのない、より適切な選択肢が他にあるので、それが正解になるのであるが、(28)も、文脈によっては True になる可能性がある。

3節で見てきた能力を整理すれば、本文で書かれていないことについて常識に引きずられて True としない能力、本文と部分的に整合している選択肢の不整合部分を見逃さない能力、質問されている内容により適切な解答を選ぶ能力ということになる。

## 4. おわりに

TOEIC の Part 7 の解答者は、英語の個々の表現の意味や構文が理解できるだけでなく、A という語を聞けば語 B を連想できる能力や「A だったら B であるはず」という推論する能力を必要とする。複数の本文の内容を関連づける能力、本文に書かれていないが、さもありそうなことを書いている選択肢を排除する能力、全体的な本文の趣旨を適切に捉える能力、そして、曖昧な解釈ができる場合に、より適切な解答を選ぶ能力を必要とする。本稿では、これらの能力を TOEIC Part7 を解答する際に必要な普遍的な能力と考えた。

## 注

<sup>1)</sup> 『TOEIC テスト新公式問題集』Vol.5, 2012, 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会, TOEIC 練習テスト (2) 問い

**155**

<sup>2)</sup> 注1) に同じ, TOEIC 練習テスト (2) 問い **192**

<sup>3)</sup> 注1) に同じ, TOEIC 練習テスト (1) 問い **167**

<sup>4)</sup> 注1) に同じ, TOEIC 練習テスト (1) 問い **194**

<sup>5)</sup> 『TOEIC テスト新公式問題集』Vol.4, 2009, 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会, TOEIC 練習テスト (1)

- 問い **172**
- 6) 第 210 回 (2016 年 5 月 29 日実施) 以降は、本文が 3 つの問題 (トリプルパッセージ) も出る可能性がある。
- 7) 注 1) に同じ, TOEIC 練習テスト (2)  
問い **184**
- 8) 注 1) に同じ, TOEIC 練習テスト (2)  
問い **195**
- 9) 注 5) に同じ, TOEIC 練習テスト (1)  
問い **153**
- 10) 注 5) に同じ, TOEIC 練習テスト (2)  
問い **160**
- 11) 注 5) に同じ, TOEIC 練習テスト (2)  
問い **169**
- 12) 注 1) に同じ, TOEIC 練習テスト (1)  
問い **154**
- 13) 注 5) に同じ, TOEIC 練習テスト (1)  
問い **180**
- 14) 注 5) に同じ, TOEIC 練習テスト (1)  
問い **167**